

瓦葺中学校だより

教育目標

あかるく心豊かな生徒
たくましく進んで汗を流す生徒
まじめに学習に取り組む生徒

学校スローガン：一人一人の「理想とする学校生活」の実現へ

第9号 令和7年2月3日

上尾市立瓦葺中学校 校長 加藤 俊一

〒362-0022 上尾市瓦葺 163 番地

TEL 048-722-2101

FAX 048-721-9809



←

HP

一念天に通ず

校長 加藤 俊一

1月21日、アメリカ大リーグのマリナーズなどで通算3089安打を記録したイチローさんが**アメリカ野球殿堂の栄光**を手に入れました。アメリカ野球殿堂入りは大リーグのメジャーで10年以上プレーし、引退してから5年が経過した元選手らが対象となります。アメリカ野球殿堂入りは、1936年に選考が始まり、これまで殿堂入りした人数は351人で、日本人としてアメリカ野球殿堂入りを果たしたのはイチローさんが初となります。

イチローさんは、日本人野手として初めて大リーグに挑戦し、2001年のデビュー1年目から首位打者と盗塁王に輝き、その年のMVPと新人王を同時に受賞しました。そして、1年目から10年連続200本安打を達成し、10年連続ゴールデングラブ賞を受賞、さらに2004年には**年間最多安打の新記録262本**を樹立しました。

そんなイチローさんが最多安打記録を残したとき語った言葉は、「**小さなことを重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道なんだ**」であり、まさに今回のタイトル「**一念天に通ず**」ではないでしょうか。この言葉の意味は、「**物事を成し遂げようと一心になれば、それが天に通じて、必ず成功する**」です。

イチローさんがここまで素晴らしい功績を残したのは、「**一流の努力**」をしてきたからだ、若き日のイチロー選手の専属打撃投手として、練習に打ち込む姿を間近で見てきた奥村幸治さんがあるインタビューで次のように語っています。

基本の「プロとしての体づくり」において、シーズンを通して身体の状態を万全に保つための努力は有名であり、食事にも人一倍気を付けていたそうです。また、**目標を明確にし、自分が納得するまでやると決めたことは必ずやる**ということを徹底していたようです。例えば、高校3年間1年365日毎日10分間の素振りを欠かさず続けていたそうです。しかも、最低10分であり、やり続けると1時間2時間やることもあったといいます。

以前、NHKの番組でイチローさんは、「心が折れそうになった時、自分の続けてきたことをやめてしまおうと思ったこともあった。しかし、もし仮にやめてしまったら自分が自分でなくなってしまう」と話し、「今の自分があるのは、やると決めたことを休むことなく続けてきたからで、**努力の継続が心の支え**である」と話しています。

生徒の皆さんには、以前にも話をしましたが、無謀で不可能であると思われることも、**あきらめずに地道に努力**することで、**人はいくつもの夢をかなえてきた**のです。大事なことは、「**何のためにやるか**」ということです。ただ回数こなすことや時間をかけてやることだけが大事ではなく、自分の未来の姿を想像し、目標をはっきりとさせ、目標を達成するためには、自分が**今、何をやらなければならないか、何をやり続けなければならないか**を見失うことなく努力することです。今やっていることが、**必ず目標に向かって**いるかを自分自身で確認することが大事です。大きな夢の実現でなくとも、皆さんには**自分のやると決めたことをやり遂げる人**になってほしいと願っています。

3年生は進路実現へのラストスパートの時期になりました。まずは体調管理をしっかりと、当日万全な状態で試験に臨みましょう。最後まであきらめず、「**一念天に通ず**」の思いで進路実現につなげてください。**がんばれ葺中生！**応援しています。

2月の行事予定

(完全下校時刻 17:30)

3月の行事予定

(完全下校時刻 17:30)

曜日	主な行事予定	部活	日	曜日	主な行事予定	部活
1 土		○	1 土			○
2 日		○	2 日			○
3 月	朝会日課 全校朝会	×	3 月		県公立高校追検査	×
4 火	6hカット(3年) 三者面談(3年)	○	4 火		火曜日課③④①②⑤⑥ 3・4hデートDV防止啓発講座(3年) 後期最終専門委員会	○
5 水	スキー体験教室1日目(1年) 6hカット(3年) 三者面談(3年)	○	5 水		木曜日課③④①②⑤⑥ 3・4h球技大会(3年) 5h県公立高校入学許可候補者発表事前指導(3年)	○
6 木	スキー体験教室2日目(1年)	○	6 木		金曜日課 3年生を送る会前日準備	△
7 金	スキー体験教室3日目(1年)	○	7 金		水曜③④⑤⑥ 3年生を送る会	○
8 土		○	8 土			○
9 日		○	9 日			○
10 月		○	10 月			○
11 火	建国記念の日	×	11 火		水曜日課③④①②⑤⑥ 後期最終中央委員会 5・6h職業人から話を聞く会(1年)	○
12 水	二者面談(1, 2年)	○	12 水		卒業式予行 木曜①②予予⑤⑥ 卒業式前々日準備	○
13 木	特別日課 後期第4回専門委員会(3年最終)	×	13 木		金曜③④⑤⑥ 卒業式前日準備	×
14 金	二者面談(1, 2年)	○	14 金		卒業証書授与式	×
15 土		○	15 土			○
16 日		○	16 日			○
17 月	学年末テスト(3年) 二者面談(1, 2年)	○	17 月		水曜①②木曜③④火曜①	○
18 火	二者面談(1, 2年) 県公立高校志願先変更期間	○	18 火		火曜②③④⑤⑥ 6hカット	○
19 水	二者面談(1, 2年) 県公立高校志願先変更期間	○	19 水		金曜⑤⑥①② 5・6hカット ふれあいデー	×
20 木	後期第4回中央委員会(3年最終)	○	20 木		春分の日	×
21 金	校外学習(わかくさ学級) 部活動停止期間 ふれあいデー	×	21 金		月曜①②③④ 5・6hカット 給食最終日	○
22 土		×	22 土			○
23 日	天皇誕生日	×	23 日			○
24 月	振替休日	×	24 月		朝読書なし 学級活動 大掃除	○
25 火	木曜日課 6h県公立高校学力検査等事前指導(3年)	×	25 火		朝読書なし 学級活動 学年集会	○
26 水	県公立高校学力検査	×	26 水		修了式	×
27 木	火曜日課 県公立高校実技検査・面接	×	27 木			○
28 金	学年末テスト(1・2年)	×	28 金			○
			29 土			○
			30 日			○
			31 月			○

50周年 制服変更について

本校は昭和52年4月1日に開校され、再来年の令和8年度をもって50周年を迎えることとなります。節目の年を迎え、歴代続いてきた学校制服を見直すこととしました。

制服の検討につきましては、本校に入学予定の現小1～小5の児童の保護者（尾山台小・瓦葺小）、実際に制服を着用している本校の生徒と保護者からアンケートをとらせていただきました（結果は右図参照）。



第4回学校運営協議会で委員の皆さまと新しい制服の機能性やデザイン等の確認を行いました。

アンケートで多くいただいたご質問について以下のように回答させていただきます。今後、いただいた様々なご意見を参考にさせていただきながら制服を決定してまいります。

Q：なぜ制服を変更するのですか？

A：制服変更の主な理由は以下の通りです。

1. 時代の変化に合わせた機能性やデザイン性の向上

現代の生徒のニーズに合わせた「機能性（着心地や伸縮性）」や「素材（丈夫で長持ち）」を取り入れた制服が求められています。暑さ対策・寒さ対策に配慮した素材の採用や、ジェンダーレスな制服や、多様な体型に対応できるサイズ展開も重要になっています。

2. 学校の特色や教育理念を反映したデザインへの変更

制服は学校の顔となるものであり、学校の特色や教育理念を反映したデザインにすることで、学校のイメージアップにつながります。生徒の学校への帰属意識を高める効果も期待できます。本校がさらに未来へ向けて力強く歩みを進められるようにデザインを選定します。

3. 安全性の向上

「機能性（着心地や伸縮性）」を重視し動きやすさを考慮した制服にすることで、生徒の安全性を高めることができます。さらに、交通安全のため反射素材などを備えた制服もあります。

Q：保護者負担が大きくなるのではないですか？

A：保護者負担の軽減できるよう以下の対応を検討しております。

1. 制服単価は同程度

保護者・生徒から要望が多かった「機能性（着心地や伸縮性）」や「素材（丈夫で長持ち）」を重視しつつ、現行制服から同程度の負担となるように業者に要望しております。

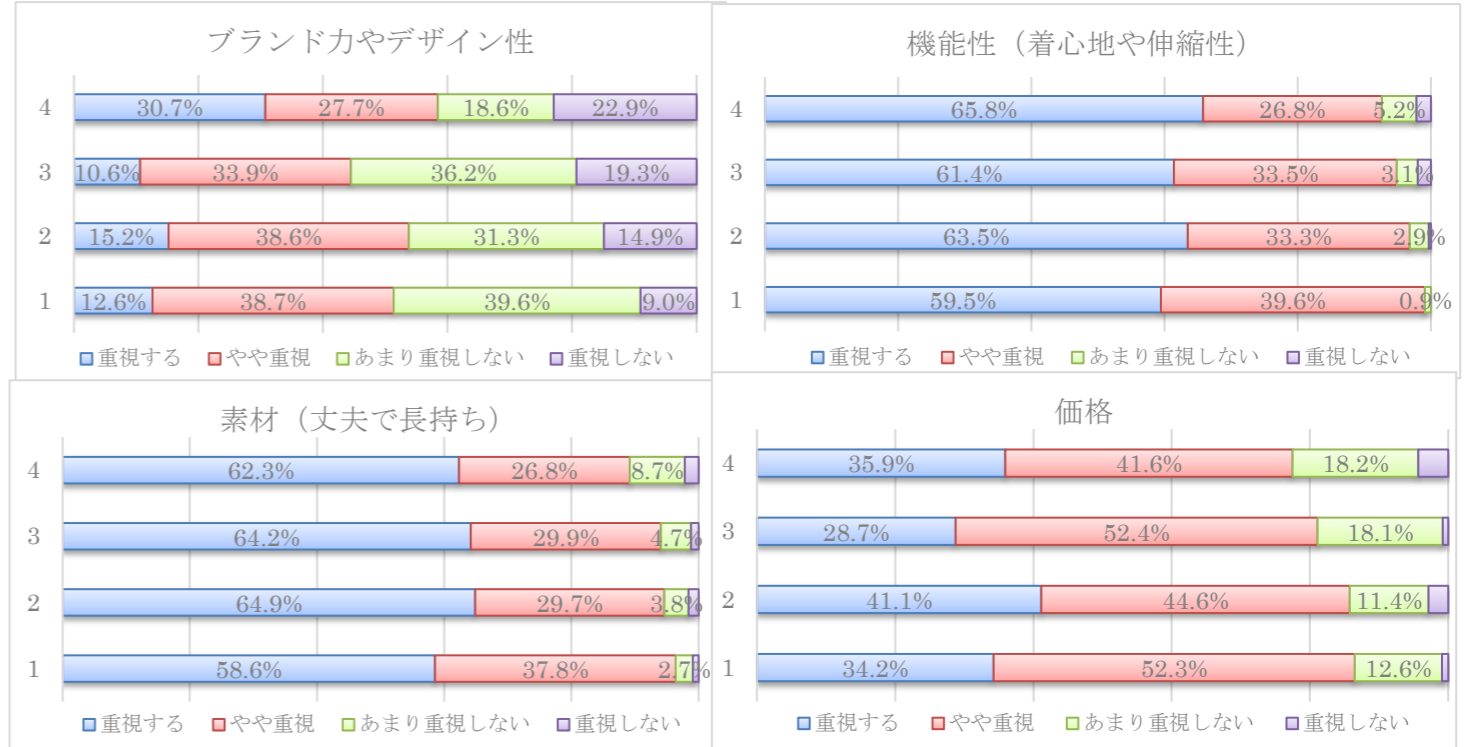
2. 夏服の取扱いについて

熱中症対策のため着用機会が少なくなっている夏服の取り扱いについて、どうあるべきかを検討しております。

3. 移行期間の設定

リサイクル品を使用したいというご家庭の要望を受け、新しい制服への移行期間を設け、旧制服の着用について、移行期間・併用期間を含め検討してまいります。

●保護者・生徒アンケート集計結果



※縦軸4～1の内訳【4尾山台小保護者 3瓦葺小保護者 2瓦葺中保護者 1瓦葺中生徒】

不審者対応訓練

1月16日（木）に3学期の避難訓練として「不審者対応訓練」を実施しました。上尾警察署から2名の方にご来校いただき、実践を交えた対応訓練をすることができました。教職員は不審者が入ってきたときにどのような連絡体制で、どのように対応をしていくかを学ぶことができました。また、生徒は教室内のバリケードをつくったりするなど、いざというときに何をすべきかを考える貴重な機会となりました。

体育館に移動したのち、上尾警察署の方からは不審者に遭遇した時に「身の安全を確保するために逃げること」「周囲に異常事態が起きていることを伝えていくこと」が最も大切であることを教えていただきました。

行動を起こすうえで知識は最大の武器となります。いつどこで何が起こるか分からない現代だからこそ、いざという時に何をすべきかをよく考えてみてください。

